こども教育課



高梁市の長期欠席・不登校対策について

長期欠席・不登校の推移について

小学校	R1	R2	R3	R4	R4県	R4全国
長期欠席（人）	１３	１９	１８	３２	–	–
うち不登校（人） （出現率%）	１０ (0.88%)	7 (0.63%)	6 (0.55%)	１０ (0.97%)	1.9%	1.7%
中学校	**R1**	**R2**	**R3**	**R4**		
長期欠席（人）	３８	４１	３４	３１	–	–
うち不登校（人） （出現率%）	３２ (5.0%)	３１ (5.1%)	２５ (4.4%)	１８ (3.3%)	4.5%	6.0%

（県・全国：Ｒ４問題行動調査）（高梁市：高梁市教育委員会調べ）



小中とも全国的に増加の一途をたどる中、高梁市の中学校では減少傾向である。不登校の出現率は小中とも全国・県に比べても引き続き低位を保っているが、小学校はＲ４に一時的に増加した。

長期欠席・不登校の推移について（９月末現在）

小学校	R４	R５
長期欠席（人）	９	１６
うち不登校（人）	２	８
中学校	**R４**	**R５**
長期欠席（人）	１５	１７
うち不登校（人）	１０	１２

（高梁市：高梁市教育委員会調べ）

小学校（長期欠席について）
昨年同時期に比べて５人増加した学校が１校あり、数値を押し上げた。

中学校（長期欠席について）
昨年同時期に比べて３人増加した学校が１校あり、数値を押し上げた。



高梁市における長期欠席・不登校対策

県内学校の一般的な対策

1. 欠席３日までの初期対応
2. こどもの状態評価による対応

「岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード」より

それに加えて
高梁市での対策

1. ＳＳＷ・登校支援員等連絡協議会の開催
2. 校内教育支援センター、適応指導教室の活用
3. ICTを活用した不登校対策

※ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）



個に応じた支援へ

１　ＳＳＷ・登校支援員等連絡協議会の開催

毎月こども教育課が主催し学校で直接対応しているＳＳＷや登校支援員、行政関係者が一堂に会して各校の現状や個別の支援状況について協議を行っている。



・ＳＳＷ
・登校支援員（高梁小、落合小、成羽小）
・こども未来課（家庭児童相談員等）
・健康づくり課（保健師）
・こども教育課担当者
＋研修講師として（吉備国際大教授、療育機関関係者）

学校の体制を福祉の視点（一般の感覚も含む）で見取った感覚を大切にしている。

こども教育課から直接校長に指導助言を行う材料にしている。

2　校内教育支援センター、適応指導教室の活用

校内支援センター（別室）
高梁小、落合小については県の事業を獲得し、教員免許を持った教員を専任で配置（午前）



適応指導教室（やすらぎ教室）
学校・家庭との連携を大切にしながら個別の支援の実施

移転に併せてWi-Fiとタブレットを設置



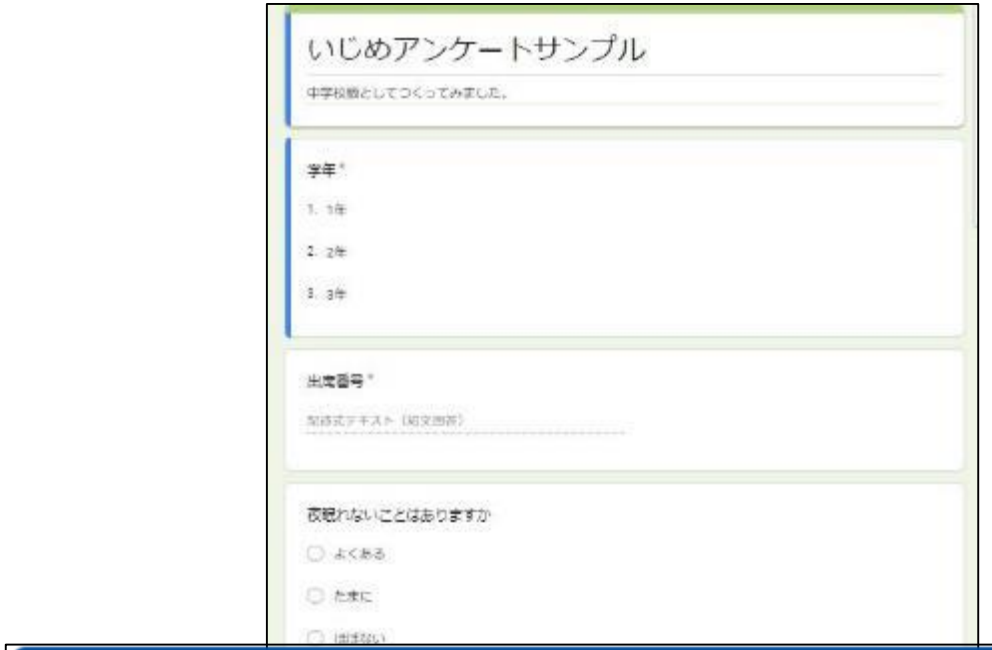




3　ICTを活用した不登校対策（未然防止、初期対応）

いじめアンケート
GoogleForms等を活用し実施（実施の負担が低減でき、回数の増加に貢献）

体調・心情の変化
L-GATE（高梁市が採用する学習eポータル）を活用し毎日の心情や体温等を回答してもらう（些細な心情の変化を捉えることで初期対応に活用）





3　ICTを活用した不登校対策
（未然防止、初期対応）

DQworld（小学校５，６年で実証検証中）

ＩＣＴの自律的活用のための基盤育成ができるオンラインプラットフォーム
＜ＲＰＧのようなストーリー性のあるゲームを楽しみながら社会を生きるために必要なスキルを身につける＞
※教員の負担軽減にも貢献





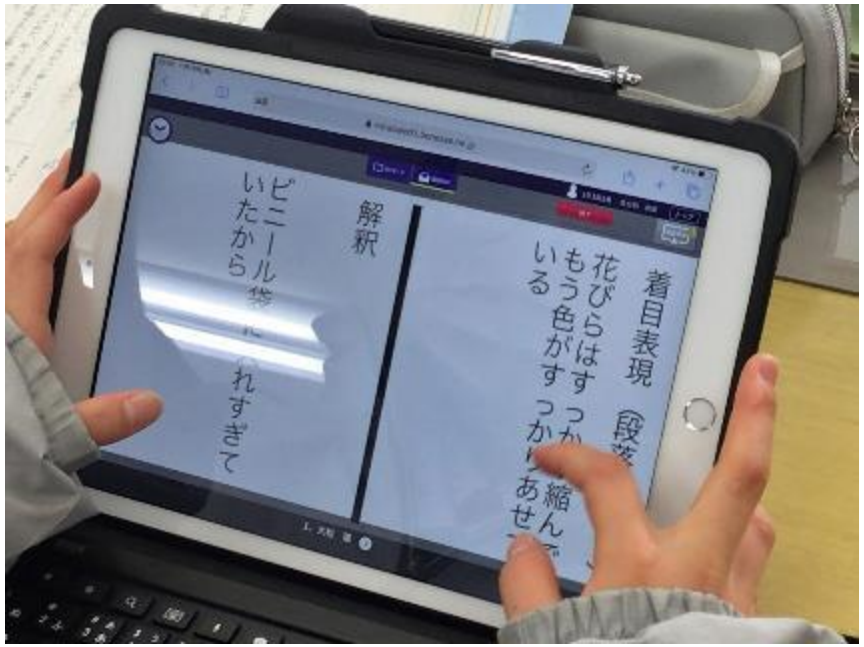


3　ICTを活用した不登校対策（対応）

該当児童生徒のニーズに応じて、授業の配信等を実施
（別教室や家庭で視聴）



ＡＩドリル等宿題の課題機能やGoogleクラスルームを活用したやりとり等



課題

1. 保護者の虐待や養育上の問題による拡大ケース会議の開催回数が大幅に増えており、長期欠席・不登校の要因ともなる課題のある家庭への支援に苦慮している
2. 教員のなり手不足、若手教員の増加等による指導力の低下

- 県の事業を活用した中学校の校内支援センターへの人員配置
- 小規模特認校を活用した小規模校への転校の柔軟な対応や適応指導教室の充実
- 学校卒業後のひきこもりやヤングケアラーをふくめ家庭へ直接的・継続的な支援がうけられるようにする　⇒　市長部局にＳＷ（ソーシャルワーカー）やカウンセラー等を採用する　など

- **学校の風土を変える**　楽しい学校・来たくなる学校